

令和7年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

1 研究の内容

授業力向上 (○) ・道徳教育 () ・キャリア教育 () ・特別活動 ()
カリキュラム・マネジメント () ・その他 () (内容:)

2 学校の概要

プロジェクト校 (研究指定校)	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
甲佐町立甲佐中学校	286・12学級	25	岩下 正尊	高島 淳

3 研究主題

能動的に学び続け、共に未来を切り拓く生徒の育成
～「話し合い活動を大切にしたい授業づくり」と「希望に満ちた学級づくり」を通して～

4 研究主題設定の理由

本校の課題は、諸学力調査の結果から基礎的・基本的な内容の定着について県平均と比べて大きな差が見られるなど、学力が定着していない生徒が多く見られることである。その一因として、学習意欲の低さが大きく影響していると考えられ、学習に向かう姿勢が受け身になっている生徒が多い状況が見られる。

さらに、話の組み立てなどを工夫して自分の考えを発表することや、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることに課題があり、学習意欲の低さにもつながっているものと考えられる。

以上の課題を踏まえ、生徒の学習意欲を高める授業づくりや学級づくりを行うことで、「熊本の学び」の理念である「能動的に学び続ける力」を育成し、希望をもって共に未来社会を創造していく意欲に溢れる生徒を育成することを目指し、本研究主題を設定した。

5 研究の具体的な取組内容

研究主題の具現化のために、本研究では2つの部会を設定し、連携しながら同じ方向へ進む研究・実践を追究する。

授業づくり部会 「話し合い活動」を大切にしたい「熊本の学び」の推進

- ① 「展開」に重点を置いた、「やってみよう」「なるほど」「きっと」など、挑戦したり納得したりする生徒の姿が見られる授業づくり
- ② 「終末」に重点を置いた、「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組む生徒の姿が見られる授業づくり

学級づくり部会 「熊本の学び」を実現する「希望に満ち、安心感のある学級づくり」の推進

- ① 人間関係形成、学級経営、SST やセルフストレスチェック等の実践

6 目指す成果【検証方法】

- (1) 「意欲的に学習に取り組む生徒」の育成
- (2) 「安心して学ぶことのできる学級（・学年・学校）」の実現

【検証方法】 諸学力調査、研究授業、公開授業、生徒・教師・保護者及び研究発表会参加者によるアンケート等

7 研究実施の実際

時 期（月）	実施内容
4 月	<ul style="list-style-type: none">・ 研究の方向性の共通理解・ 研究主題、研究組織、仮説等の決定
5 月	<ul style="list-style-type: none">・ 理論研修及びワークショップ・ 研究組織（部会）での取組検討・ 各教科、各担任、各部会での実践計画
6 月	<ul style="list-style-type: none">・ 授業における話し合い活動（自分の言葉で相手に分かりやすく伝えるための方策）
7 月	<ul style="list-style-type: none">・ 研究授業及び授業研究会（第3年学年社会科）・ 1学期の反省と2学期に向けて・ 甲佐町小中学校合同研修会（講師：熊本県教育庁市町村教育局義務教育課 山本 貴一 参事）・ 研究授業検討（講師：義務教育課 岡崎 卓 指導主事、上益城教育事務所 下城 秀樹 指導主事、益城町立益城中学校 寺田 亜紀 指導教諭）
8 月	<ul style="list-style-type: none">・ 諸学力学習状況調査結果やアンケート結果の検証
9 月	<ul style="list-style-type: none">・ 理論研修及びワークショップ（好ましい人間関係づくり、効果的な話し合い活動について）・ 研究授業検討（講師：義務教育課 岡崎 卓 指導主事、上益城教育事務所 下城 秀樹 指導主事、益城町立益城中学校 寺田 亜紀 指導教諭）
10 月	<ul style="list-style-type: none">・ 研究授業検討及び事前打合せ（講師：義務教育課 岡崎 卓 指導主事、上益城教育事務所 下城 秀樹 指導主事、益城町立益城中学校 寺田 亜紀 指導教諭）・ 「熊本の学び」プロジェクト校研究発表会（公開授業）
11 月	<ul style="list-style-type: none">・ 研究発表会（公開授業）の反省
12 月～1 月	<ul style="list-style-type: none">・ 研究のまとめ・ 2学期の反省と3学期に向けて・ 諸学力学習状況調査結果やアンケート結果の検証
2 月～3 月	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度の反省及び来年度への志向

8 市町村教育委員会の役割及び取組

- ①町全体での教育課題の共通理解と各学校の主体的な取組の推進
 - 小中連携教育の取組（豊かな心部会、確かな学力部会、健やかな体部会）

- ・義務教育9年間を見通し、小中学校教育の土台となる実践事項の共通理解と取組

○町教職員全員研修の開催

- ・喫緊の教育課題に対する教職員の認識と実践の方向性を持たせる研修を計画

○「町共通研究事項」を踏まえた校内研究推進

- ・本町の学力に関わる課題を共通研究事項として、各学校において研究テーマと研究仮説を設定し主体的で創意工夫のある取組を展開

② 教育活動の充実のための環境整備

○授業や会議等で活用できる ICT 機器の導入

- ・全教室に電子黒板（65 インチ）
- ・教職員、児童生徒へのタブレット配付（i-Pad, LET 通信）

○町指定「学力向上」研究推進事業

- ・2年を研究の期間として、町内の学校を順次に研究助成し、学力向上の取組を推進

○読書推進のための学校図書館の環境整備

- ・図書司書の配置
- ・貸出システムの電算化

○英検受検費用の町補助

- ・英語教育の充実のために、英検受検費用の一部を町予算から補助

9 研究の成果

令和7年12月に、令和7年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査を再度行った。その中で、「自分の考えを発表する機会では、話の組立てなどを工夫して発表していますか」の質問項目について、肯定的な回答の数値が4月から17ポイント上昇した。「学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができていますか」の項目においては、11.1ポイント上昇し「当てはまらない」と答えた生徒の数値は0となった。

毎時間の授業において、話し合い活動を継続して取り組むことで、生徒は相手に分かりやすく伝えることを意識する姿が見られるようになった。また、その思考の過程で考えを深め、自らの興味関心を広げることにつながった。

10 研究の課題と今後の展望

取組の結果、生徒は授業に意欲的に参加し活発に活動する姿が見られるようになったが、県学力調査は県平均を下回る結果であった。学習内容の定着が不十分な生徒が一定数見られるので、結果分析を行い、課題を明らかにし、次年度の研究へとつなぎたい。

1.1 研究成果の普及

甲佐町は小中一貫教育の取組を推進しており、本年度も小学校との連携を図ってきた。本校の今年度の研究の成果を小学校に広げ、次年度においても小中連携を継続・推進していく。

また、研究の成果について、リーフレット作成等で普及を図る。